

【自立活動シート】（記入例）

○前年度の指導目標と評価を確認しましょう。

これまでの子どもの自立活動の学びを踏まえて指導目標を考えるために、前年度の指導担当者が子どもの実態をどのように捉え、なぜその指導目標を設定したのか評価も確認しましょう。

Ⅰ 実態把握

(1) 子どもの生活や学習において、本人の得意なこと・頑張っていること・好きなこと、苦手なこと・困っていること、本人と保護者の願い、数年後（約3年）や卒業後の姿を想像して書いてみましょう。

子　ど　も　の　姿	
学　年	1年
障　が　い	知的障がい、構音障がい
本人の得意なこと・頑張っていること・好きなこと （ここに入力した内容は、「5 具体的な指導内容の設定」の項目に反映されます。）	本人の苦手なこと・困っていること
・好きな大人や友達があり、その相手に自分から笑顔でかかわろうとする。相手のすることを真似するなどして合わせようとするので、友達からも好かれている。	・発音が不明瞭で、順序だてて話すことが難しいため、話していることが相手に伝わりにくいことがある。
・アニメが好きで、その話を自分から慣れた大人に話そうとしたり、絵を描いたりしようとする。	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。
・学習にはまじめに取り組む、言われたことはきちんとしようとする。	・慣れないことや初めてすることには不安感があり、担任の後ろに隠れるようにしていることがよくある。
・体を動かす遊びが好きで、慣れた相手と鬼ごっこなどを楽しんでいる。	・大きな声で話す活動的な友達との集団の場では、自分の思っていることをあまり出そうとせず、周りに合わせていることが多い。
本人と話をしてみて、かかわってみて、遊んでみて... ・興味・関心をもっていること ・いきいきと取り組む活動 ・その子らしさ、良さなどを 書きます。	保護者やかかわりのある教職員からも様子を聞いて記入しましょう。
児童生徒自身の考えや思いを捉えることができるように、自立活動、日々の言動、その他の学習活動の様子を振り返り続けていきましょう。その中で、気づいたことや想像できたことがあれば、更新をしていきましょう。	
本人の願い	・〇〇（アニメのキャラクター）になりたい。 ・みんなと一緒に勉強したい。
保護者の願い	・できるだけ、友達と一緒に勉強できる機会を多くつくってほしい。同学年の友達と仲良く過ごしてほしい。
数年後 卒業後の姿	・自分の思いや考えを自分なりの表現で友達に伝えながら、様々な活動に取り組んでほしい。

数年後の子どもの学びの場や生活の場などを想定して、そこで必要とされる力や目指す姿を記入しましょう。



個別の教育支援計画に記載がある「本人の願い」「保護者の願い」を確認しながら転記しましょう。

(2) 「自立活動の6区分27項目」に即して情報を整理し、子どもの全体像をとらえましょう。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・慣れないことや初めてすることには不安感があり、担任の後ろに隠れるようにしていることがよくある。 ・学習にはまじめに取り組む、言われたことはきちんとしようとする。	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・大きな声で話す活動的な友達との集団の場では、自分の思っていることをあまり出そうとせず、周りに合わせていることが多い。 ・好きな大人や友達があり、その相手に自分から笑顔でかかわろうとする。相手のすることを真似するなどして合わせようとするので、友達からも好かれている。	・アニメが好きで、その話を自分から慣れた大人に話そうとしたり、絵を描いたりしようとする。	・体の動きにぎこちなさがある。 ・体を動かす遊びが好きで、慣れた相手と鬼ごっこなどを楽しんでいる。 ・給食を食べるのに時間がかかる。	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・発音が不明瞭で、順序だてて話すことが難しいため、話していることが相手に伝わりにくいことがある。

□環境調整を行うことで課題とはならないもの
□現在の姿から数年後や卒業後に目指す姿との関連が弱いもの
の視点で、「給食を食べるのに時間がかかる」の課題は省いています。

2 中心的な課題（この課題が解決できたら、現在の学習や生活が円滑になるもの）を考えよう

(1) 本人の苦手なこと・困っていることを「中心的な課題を考える」欄に書き出しましょう。
次の視点の課題を省きましょう。

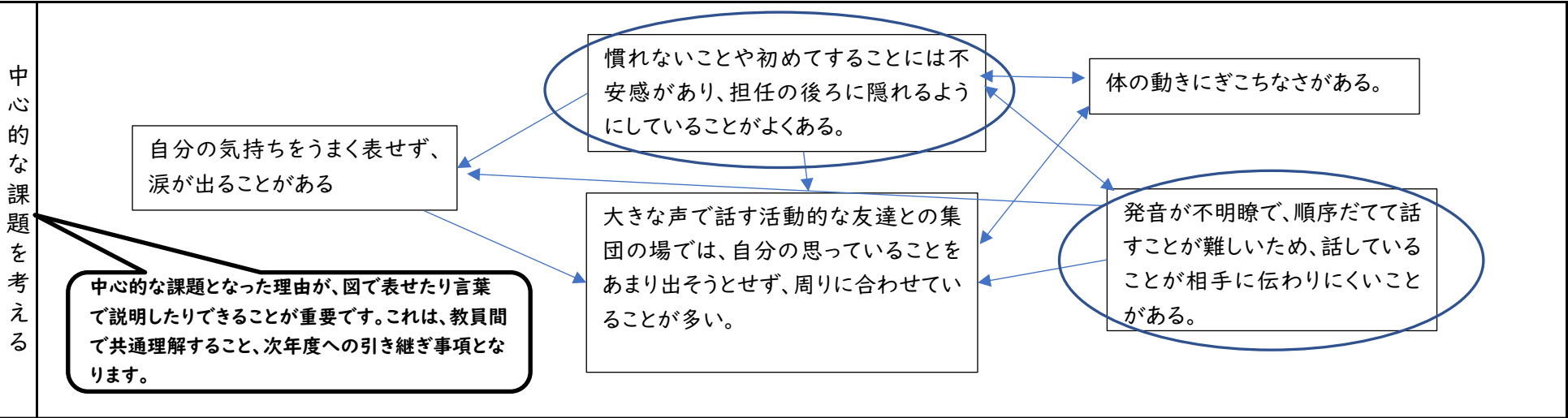
- 環境調整を行うことで課題とはならないもの
- 現在の姿から数年後や卒業後に目指す姿との関連が弱いもの

□数年間指導してきたが習得につながる変化が見られないもの

(2) 各課題との関係性から中心的な課題を見つけましょう。

- 整理の視点 □原因と結果の関係（→ ） □相互に関連し合う関係（↔ ）
- 本人と保護者の願い、数年後・卒業後の姿との関係性

◎多くの課題と関連していたり、複数の課題の原因となっていたりするものが中心的な課題です！（中心的な課題に○ をしましょう。）



3 指導目標の設定

「中心的な課題」をもとに、長期の目標（1年後）を書いてみましょう。

指導目標	選定された項目
・担任とともに、学級の友達や校内の教師とかかわろうとする姿を増やす。	心理的な安定(1) 人間関係の形成(1)(4)
・両唇をすばめたり閉じたりする動きに慣れる。	コミュニケーション(1) (2) 心理的な安定(3)

4 指導目標がどの項目と関連をしているか選んでみましょう。(☑する)

指導目標は、1 年程度の期間（もう少しでできること）で達成できることを目標にします。また、指導目標の数は1～2つにすることで無理のない指導計画を立てることができます。
指導目標は、個別の指導計画に転記しましょう。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
☐ (1)生活リズムや生活習慣の形成に関すること	☒ (1)情緒の安定に関すること	☒ (1)他者とかかわりの基礎に関すること	☐ (1)保有する感覚の活用に関すること	☐ (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	☒ (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること
☐ (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること	☐ (2)状況の理解と変化への対応に関すること	☐ (2)他者の意図や感情の理解に関すること	☐ (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	☐ (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	☒ (2)言語の受容と表出に関すること
☐ (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること	☒ (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	☐ (3)自己の理解と行動の調整に関すること	☐ (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	☐ (3)日常生活に必要な基本動作に関すること	☐ (3)言語の形成と活用に関すること
☐ (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		☒ (4)集団への参加の基礎に関すること	☐ (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	☐ (4)身体の移動能力に関すること	☐ (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
☐ (5)健康状態の維持・改善に関すること			☐ (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	☐ (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	☐ (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

5 具体的な指導内容の設定

指導目標を達成するために、「選定された項目」に関連づけて、具体的な指導内容を1～3つにまとめましょう。
その際、以下の配慮事項と本人の得意なこと・頑張っていること・好きなことを踏まえましょう。
(ア) 主体的に取り組む (イ) 改善・克服の意欲を喚起 (ウ) 発達の進んでいる側面を更に伸ばす (エ) 自ら環境と関わり合う（幼稚部のみ）
(オ) 自ら環境を整える (カ) 自己選択・自己決定を促す (キ) 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる

具体的な指導内容	○遊びの中で、両唇をすばめたり閉じたりする動きを経験する。 ・ピンポン玉転がしゲーム ・シャボン玉 ・ブクブク競争 ・口をしっかりと動かしてみよう 等	○担任と好きなことを通してたくさんやりとりをする。 ・〇〇（アニメのキャラクター）グッズや新聞づくり	○担任と一緒に、友達や校内の教師とかかわる経験をする。 ・一緒に遊ぼう ・おかしやさんをひらこう
指導場面	・自立活動の時間	・自立活動の時間 ・各教科等 ・昼休み等	・自立活動の時間 ・各教科等 ・昼休み等
本人の得意なこと・頑張っていること・好きなこと	・好きな大人や友達があり、その相手に自分から笑顔でかかわろうとする。相手のすることを真似するなどして合わせようとするので、友達からも好かれている。 ・アニメが好きで、その話を自分から慣れた大人に話そうとしたり、絵を描いたりしようとする。 ・学習にはまじめに取り組む、言われたことはきちんとしてしようとする。 ・体を動かす遊びが好きで、慣れた相手と鬼ごっこなどを楽しんでいる。		

6 指導目標の評価

評価の際は、以下の視点の両方を踏まえましょう。

□指導目標に対して、達成できたか、できなかったのか。

□指導目標や学習活動（5 具体的な指導内容）に対して、どのような態度、思いや考えをもって取り組んだり変容したりしたか。

評価は、個別の指導計画に転記しましょう。

担任とのかかわりの中で、自学級でも交流学級でも、やりたいことを表したり、興味のあることを中心に意欲的に取り組む姿がとて増えた。そして、その姿を目にした友達が「Aちゃんってこんなこと好きなんだ」と声をかけてきたり、一緒に活動を楽しんだりすることが増え、その中で担任を介さなくても友達や同じ学年部のS先生、教頭先生に向かって大きな声で話す姿も見られるようになってきた。特に、「おかしやさんをひらこう」では熱心に取り組む、今まであまりかかわろうとしなかった友達にも「次は〇〇つくるよ」と自分から積極的に声をかける姿があった。自立活動の時間における指導の中では、自分で両唇の動きを意識しながらストローやピンポン玉などを扱おうとしたり、両唇音の発声をしようとしたりするようになった。まだ確実ではないが、「こうしたほうがうまくいく」という感覚はつかんでいるようである。普段の会話の中では、特に両唇の動きを意識している様子はうかがえない。ただ、いろいろな活動を思い切り楽しみ自分の思いを表すことができるようになったことが、声の大きさや表情や動きの豊かさにつながり、以前よりやり取りはスムーズになった。それでも伝わりにくいこともあるが、その際は本人が「だーかーら～〇、〇、だよ!」とゆっくり言い直すようになり、その際は、両唇音やウ段の音で唇の動きを意識して話そうとするようになってきた。